

税金は、未来への投資

所沢市立狭山ヶ丘中学校

三年 一瀬 ゆいか

先日、税金の使いみちを調べたときに、驚いたことがあります。今の私にとって非常に身近な、教育費にかかるお金です。一年間に、一人あたり、中学生では約百万円、高校生では百十万円にもなるそうです。

教科書や授業料等、なんとなくの価値はわかっていました。しかし、一人にそんな大金がかかっているとは思えなかったですし、たった一人に百万円をこえる税金が払われているとは思いませんでした。

たった一人の学生に、百万円の税金。それが全国で何十万人。考えてみてから、自分はそれに見合う生活ができているだろうか。価値のある学びを得る努力をしているだろうか。と、自分に問いかけました。あまりの大金に、自分自身が押し潰されてしまっているのではないかという不安が過ったのです。

ですが、こうして学ぶことのできる環境を見まわしたり、培ってきた学力を思い返してみたときに、思ったことがあります。教育費という税金は、私たちへのプレッシャーなどではなく「未来への投資」なのだ。

教育費という言葉の解像度を上げてみましょう。教科書。授業料。設備費。使っている椅子や机のことです。

それらのものに込められたメッセージは「施すから勉強してね」ではなく、「応援」なのではないでしょうか。

環境をととのえるのは大人の役割で、それに応えて学びに向かうのは私たちなのです。あくまでも、税金によって賄われたものたちは、私たちの背中を押しているだけなのです。

そう思い直してから、もう一度身のまわりのものをみてみましょう。沢山の「頑張り」というメッセージが込められています。その思いに応えたいと思いませんか。応えるために、期待に見合う学びを得ようと、励もうとは思いませんか。

たった一人ですが、されど一人です。一人一人にかけられている期待と応援。未来を担いつないで行く私たちに託された思いを、今、真剣に学びに向き合うことで、受け止めていこうと思います。